



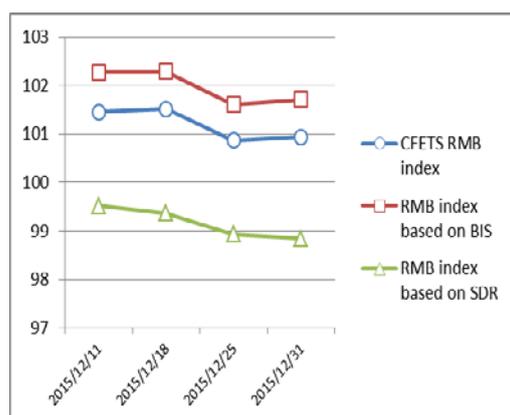
2016年1月12日

新たな人民元指数:CFETS RMB Index

公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 研究員 五味佑子

2015年12月より、中国人民銀行が運営するCFETS（中国外国為替取引システム）はCFETS RMB Index という新たな人民元指数の公表を始めた。これは、CFETSが採用した通貨バスケットを参照するもので、バスケットを構成する13通貨は、国際貿易の比率に再輸出の要素を加味して選択したとしている。合わせて公表を開始したBISの通貨バスケット（BISの実効為替レート算出に際して使用されている比率を使用）、SDRの通貨バスケット（IMFの特別引出権の価値を決める通貨バスケットで、人民元が構成通貨に採用される前の比率を使用）を基に計算した人民元指数との比較では、12/11以降毎週公表されている値をみると、今の所BISの通貨バスケットに基づいた人民元指数に沿って動いている（図表1）。

図表1：各指数の動き（2014年末=100）



出所：CFETS

図表2：BISの通貨バスケット上位13通貨との比較

CFETSの通貨バスケット		BISの通貨バスケット	
相手通貨	比率	相手通貨	比率
1 米ドル	26.4%	1 ユーロ	18.7%
2 ユーロ	21.4%	2 米ドル	17.8%
3 日本円	14.7%	3 日本円	14.1%
4 香港ドル	6.6%	4 韓国ウォン	8.5%
5 豪ドル	6.3%	5 台湾ドル	5.6%
6 マレーシアリング	4.7%	6 英ポンド	2.9%
7 ロシアルーブル	4.4%	7 シンガポールドル	2.7%
8 英ポンド	3.9%	8 メキシコペソ	2.3%
9 シンガポールドル	3.8%	9 マレーシアリング	2.2%
10 タイバーツ	3.3%	10 インドルピー	2.2%
11 カナダドル	2.5%	11 カナダドル	2.1%
12 スイスフラン	1.5%	12 タイバーツ	2.1%
13 ニュージーランドドル	0.7%	13 ロシアルーブル	1.8%

CFETSに寄稿された解説¹によると、新指数公表の趣旨は、マーケット参加者に対してCNY/USDの二国間レートだけでなく、通貨バスケットに基づく実効為替レートも参照した上で、人民元の動きや強さを判断するよう促すものである。一方で、2005年以

¹ <http://www.chinamoney.com.cn/fe/Info/15851090>
<http://www.chinamoney.com.cn/fe/Info/15875909>

降、人民元は管理変動相場制の下で変動し、通貨バスケット²が参照されているが、これは通貨バスケットへのペッグを意味するものではなく、マーケットの需給も重要な要素としてみていると言及している。とはいえ、新指数の公表により対米ドルレートだけではなく通貨バスケットでみた総合的な人民元の実力をアピールしたいという意向が伺える。

CFETS の通貨バスケット 13 通貨と BIS の通貨バスケットの上位 13 通貨（全体では 40 通貨）との違いをみると、CFETS の通貨バスケットには韓国ウォン、台湾ドル、メキシコペソ、インドルピーが含まれず、オーストラリアドル、スイスフラン、香港ドル、ニュージーランドドルが含まれている（図表 2）。また BIS の通貨バスケットではユーロが最も高い比率であるのに対し、CFETS のバスケットでは米ドルの比率が最も高い、などの違いがある。新指数の公表は、人民元レートの動きをみる上で、当局がこの 13 通貨に着目していることの現れとみることもでき、これら 13 通貨により注目していく必要があるだろう。

2 参照している通貨バスケットの構成銘柄は言及されていない。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。